

子どものいのちと育ちと平和のためにみんなでチャレンジ!

第53回全国保育団体合同研究集会
広島実行委員会

2021.8.31

最終号

ヒロシマ ゴゴ・チャレンジ! コロナ 速報

魅力満載でしたね

オンデマンド配信

感想集

保育の世界は
奥が深い!
ということが
わかりました~!

みなさん!合研熱冷めやらぬ一か月間、どうお過ごしになっておられたでしょうか。「オンデマンドで何度も見られるので、お徳感半端ないです!!」という声が、あちこちから聞こえてきていますよ!実行委員たちは、当日は動き回ってほとんど見ていないので、あとからどんなふうに運営されていたのかを見るのができ、しかも全部視聴でき、ご褒美をもらったようでした。

それでは、最後の速報「オンデマンド配信講座の感想集」をお届けいたしますね~!

速報0~6号を 広島会場一広島保育園一福山保育園一尾道保育園をネットワークでつなぎ、オンライン上でやり取りしながらつくることに挑戦しました。たくさんのお友だちキャラも誕生し、仲間がいっぱいできました。これにて仕事納めです。ご愛読ありがとうございました!

保育・子育て講座

個人を尊重し、つながりを育む保育とは
川田 学さん (北海道大学)

個人を尊重し、つながりを育む視点、主体性の第3の考え方、保育は子どもと大人の「信頼」を育てる場というところが、ほんとにその通りだなと思いました。今までもそうでしたが、コロナ禍だからこそ「信頼」して保育することが改めて大事なことだと思いました。

自分の中で主体性・自己決定ということの整理ができました。安心を土台に世界を広げていくことは0歳からの保育だけでなく、一般の社会でもいえること。だからこそ保育の中でも沢山の「関係」に働きかけ、子どもの主体性を育てていきたいと思っています。

保育士に
なりたくなりました!

「気になる子」が変わるとき
木下孝司さん (神戸大学)

はじめての幼児担任。気になる子もいる中での保育に難しさを感じていましたが、今回このようなお話を聞いてとても勉強になった。できているかできていないかではなく、プラス視点に変えていきながら、子ども一人一人を大切にしたいと思います。

コロナ禍での生活、大人も子どももコミュニケーション不足。少しのすき間時間を上手にとって話をしよう。大好きな仲間と親とがつながり、子どもの笑顔を増やしていけるよう、日々、頑張っていると思います。

保育制度講座 初級

子どもたちのために制度を学び、声をあげよう
逆井直紀さん (保育研究所)

日本の保育を支えている公的制度について詳しく話をしてくれました。公的制度のおかげでコロナ禍の保育所の基本的な収入は維持され保育ができたことや子どもを守るためにはどの子も平等に保育が保障されること。そのためには国にはもちろん自分たちの住んでいる県や自治体にも声をあげて保育環境を守っていくことの大切さも話してくれました。またこのコロナ禍の保育の経験を生かし労働条件や施設条件、配置基準など現場の保育士たちがどんどん声をあげていくことが大切だと教えてくれました。

制度について大体の意味は知っているけど、と消極的でしたが、私たちが声をあげることが子どもたちのよりよい保育につながっていくと改めて感じ、まずは自分のできることから積極的に行動していこうと思うことができました。制度のことをもっと詳しく知り、毎年の署名活動にも生かしていきたいと思っています!とってもわかりやすく納得いくお話ばかりでした!

保育制度のいまをみつめ、これからを考える
 ○保育制度の変化と公的責任の意義
 ○保育労働の現状と課題
 ○コロナ禍と保育をめぐる情勢・運動の課題

伊藤周平さん(鹿児島大学)
 小尾晴美さん(中央大学)
 井上晶子さん(全国保育団体連絡会)

保育制度講座 シンポジウム

保育のこと、世の中のこと、自分でどうにかしない、という国に対してもっとあきらめず国の責任でやって！と生の声を届けなくちゃ！と力をもらえました。コロナ禍だからこそ、今言えること、言っていきたいです。

各国の状況についても知ることができ、働き方などで保育需要が高まっていく中、供給が追いついていない実態をしりました。コロナ禍の中、命を預かる医療や保育の現場のずさんな現状がたくさんあることに驚き、国が責任を持っている事が蔑ろにされている現状に私は知らない事だらけだったんだと改めて憤りと悲しみを感じました。苦しい状況が続く中、現場の声をあげていく事の大切さ、署名の力を改めて感じ、これからも声をあげ続けていきたいです。

オンラインフィールドワーク 「へいわってなあに？」

お盆に91歳の祖母から被服支廠で働いていた話を聞いていたので当日のことがよくわかりました。祖母はそこで軍服をつくり、宇品や皆実の方でも「勤労奉仕」をしていたそうです。「あの頃は戦争じゃったけん、学校の勉強はほとんどせんと、お国のためいうて広島のものな軍需工場で働かされたんよ。同級生の優秀な人らは基町の工事に行かされた。みんな原爆で死んだ。」と言っていました。当日の女学生の日常を知り、祖母がそんな体験をしていると思うと胸が苦しくなるけれど、配信を見て改めて直接聞くことの重要さを感じました。

開催地・地域実行委員会企画

へいわってなあに のオンライン良かった～!!! 広島に住んでても知らないことばかり…。しかも普段足を運ぶような公園の中、宇品の港に戦争への加担した後や被災した後の両面が残っていること教えてもらいました。年々広島の人々が原爆の事を正しく理解し学ぶ機会が減っていると聞いています。今日知れたことを少しでも周りに伝えたり子どもたちに話したり、行動する！私も知り続ける姿勢を持っていたい！そう思います。ぜひ見て知って下さい。

福島でおこったこと —原発事故から10年

大宮勇雄さんほか



「もう10年、まだ10年」と言われていた言葉が印象に残りました。これまで、どうしても心のどこかで自分は経験していないから…とってしまうこともありましたが、コロナ禍、毎年のように起こる自然災害…と様々な脅威に晒される今だからこそ、それぞれが何が一番自分達全員にできることなのか、真剣に考えなければならないなと強く感じました。

「原発から10年、風化したと言われているけど風化するほど知られていない。」という言葉がとても重く心に残りました。色々な立場、状況の中での当時の様子を聞くことができました。今ある日常がどれだけありがたいことなのかと実感できました。今世論はコロナ禍のことばかりだけれど、決して福島の人たちの思いを忘れてはいけない、自ら知ろうとすることが大切だと思いました。今日の前にいる子どもたちに同じ思いをさせたくないとも強く思いました。子どもたちにとって今何が大事なのかと考えながらしっかり向き合っていきたいです。

つながれ！合研！ 次の開催地にバトンタッチ！



広島来たら、この土産がええよ！
 キットカット(もみ饅味) はっさくゼリー 川通り餅 生もみじ いか天 レモン酒! 酒!! 酒!!!

広島的美味いもん
 もみじ饅頭 はっさく大福 宮島揚げもみじ饅頭 牡蠣 お好み焼き 瀬戸内レモン 尾道のアイスモナカ 向島のチョコレート 牡蠣醤油 はっさくゼリー はっさく大福 広島ラーメン 酒!!

わし…合研にはまったけんねえ…
 一年後また会おうねー!
 よその饅頭も来る?

みんな～! 高知に向かって 出発～!!

よその県の人と 友だちになろうね～!

黒潮にのって おいで～!
 宮島もきてよ!

広島に来ちゃった時にやー お好み焼きたべてね～!

わしもポチポチ行こうて…